

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	上那賀町立宮浜中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 7
学級数	1	1	1	0	3	
生徒数	4	2	6	0	12	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、意欲的に学習に取り組む生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

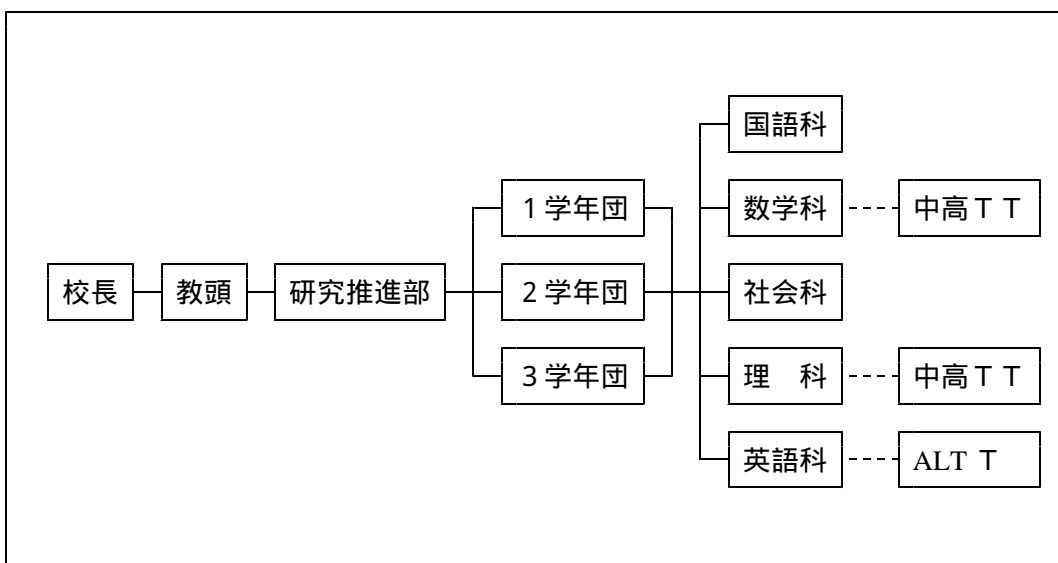
・全学年の国語、数学、理科、社会、英語  
 本校は生徒数12名という小規模校であるため、個々の生徒により目を配りながら学力を総合的に伸ばしていきたいという観点から、全学年、5教科にわたって実施することとした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力を身につけ、意欲的に学習に取り組む生徒の育成」</p> <p>研究の見通し 少人数校の特性を生かし、今まで以上に個々の生徒に目を配りながら基礎・基本のいっそうの定着を図ることにより、一人ひとりの生徒に確かな学力が身につくだろう。また、そうして身についた力が、自ら学び、自ら考え、自ら解決するといった「生きる力」の育成につながっていくだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の全校読書</li> <li>・高等学校教員とのチームティーチング</li> <li>・質問教室</li> <li>・各種検定への挑戦</li> <li>・授業内容の改善</li> <li>・家庭学習の推進</li> <li>・観点別学力診断テスト</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な定着をめざして」</p> <p>研究の見通し 平谷中学校と統合になり、上那賀中学校として新しくスタートを切ることになる。両校の取り組みの良さを融合させ、生徒の実態を再確認してから研究を進めたい。「朝の読書」と「ドリル学習」の時間を設定し、毎日継続して取り組むことで、読解力や基礎基本の理解が十分になるであろう。また、チームティーチングや習熟度別指導を生徒の実態に応じ、効果的に行うことで、より個に応じた指導が可能になり、学力も向上すると考える。さらに家庭学習の充実を図るための取り組みも工夫したい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の全校読書</li> <li>・ショートユニット</li> <li>・チームティーチング</li> <li>・授業内容の改善</li> <li>・質問教室</li> <li>・観点別学力診断テスト</li> <li>・各種検定への挑戦</li> <li>・家庭学習の推進</li> </ul>
--------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

##### (朝の全校読書)

- ・語彙力や読解力を豊かにし、表現力や想像力を向上させるために、毎朝10分間の全校読書の時間を設けている。

##### 生徒の意見

- ・本を読むスピードが速くなった。
- ・いろんな漢字を覚えてきた。
- ・感受性が豊かになってきた。
- ・知らなかった言葉が出てきたりしたらとても勉強になる
- ・読書をする時間ができてすごくうれしかった。

##### (高等学校教員とのチームティーチング)

- ・高校の専門性を生かした授業内容や、専門的な教材の準備がなされ、複数の教員が関わることによるきめ細かな学習指導に効果をあげている。

##### (質問教室)

定期テスト前の放課後の時間を利用して、質問教室を実施している。

##### 生徒の意見

- ・静かにみんなで勉強しているので、家で勉強するよりも集中できる。
- ・家では嫌々しているけど、学校では決められた時間しているからためになる。
- ・先生がそばにいて、緊張感があって家よりも集中できる。
- ・わからないところは先生に教えてもらったので、すごくよかった。

##### (各種検定への挑戦)

- ・学習への動機づけや、自己の力を公正に判断するひとつの材料を得るために、漢字検定、硬筆検定、英語検定の受検を奨励している。生徒は自分の力にあった検定級の合格をめざして取り組んだ。

##### (授業内容の改善)

- ・各教科とも毎時間の授業の最初の5分程度を「ふり返りタイム」とし、個々の生徒に応じた内容の基礎・基本事項の確認と定着を図る取り組みを続けている。

##### (家庭学習の推進)

- ・「家庭学習記録表」に家庭学習の状況を毎日記録、提出させることにより、生徒が自らの学習への取り組みを自己判断しながら、生活リズムや学習状況を見直し、家庭学習の習慣づけができるようにしている。

## 2. 今後の課題

小規模校という本校の特性を生かし、生徒一人ひとりに確かな学力をつけさせたいという視点から進めてきた本年度の取り組みは、基礎・基本の定着という面で効果をあげてきた。しかし、生徒たちの中には学習に対して「やらされている」という受け身の気持ちが残っている者もあり、この受け身の気持ちをどのように学習に対する積極性の育成に結びつけていくかが今後の課題である。

また、来年度4月からの平谷中学校との統合により、学校環境が内外ともに大きく変化する。両校のこれまでの教育実践をどのように統合し、さらに発展させて進めていくかも大きな課題である。

### 学力把握のための学校としての取組

(観点別学力診断テスト)  
生徒自身が自らの学習の取り組みを客観的にフィードバックできるように、また、指導者である教師自身が自らの指導の取り組みを客観的にフィードバックできるように、2学期末に観点別学力診断テストを国語・数学・理科・社会・英語の5教科で実施した。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・第1回授業研究会および研修会(理科)  
期日 平成15年12月12日  
場所 宮浜中学校  
対象 町内小・中教員
- ・第2回授業研究会および研修会(国語)  
期日 平成16年1月21日  
場所 宮浜中学校  
対象 町内小・中教員
- ・第2回授業研究会および研修会(社会)  
期日 平成16年1月28日  
場所 宮浜中学校  
対象 町内小・中教員

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                         10～12学級  
                                  13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無